(大正十四年十二月一日第三種郵便物認可)　昭和三年二月十五日　THE TAIRASHIMPO　第五十五號　一

平新報

發行日每月三回五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢郵料五厘

推薦廣告

謹啓、お寒さの折柄いよ〳〵御清適大賀の至りに存じます、さて衆議院議員總選擧の日は余す處數日となりました申すまでもなく今回の總選擧は普通選擧制による最初の試練であり國家憲政上重大なる意義を有するものでこの劃時代的なる時局に方りよく民衆を代表し國政の重きに任じ得る候補者として

木村清治氏

を眞に理想的適材と確信いたします、同氏の人格識見、手腕は夙に三期に亘り縣會議員として直接行政の上に發揮され、陸々たる氣骨と、溫い情誼と、常に地方事情に精通し居る事は畏敬する所であります、國家の選良として眞に得難き適任の士と信じて居ります、何卒同氏當選の爲熱烈なる御同情御援助の程を【衷儀乍ら紙上を以てお願ひ致します。

尙同氏の懷抱する宣言としての政見挨拶の一端を左に掲げましたから御一覽を願ひます。

昭和三年二月

石城郡飯野村大字谷川瀨六四
山崎吉平
石城郡飯野村大字北白土一〇
伊藤淺之助

木村候補宣言挨拶

昨年四月田中總裁大命を拜して我黨內閣を組織するや前內閣內外の失政より國權國益の將に毀損せられんとしたる對支外交に機宜を制して在支七千萬同胞の危難を擁護し財界未曾有の大混亂に直面しては緩急按排以て其毒處を誤らず一面在野時代より一貫せる積極進取の國策を掲げ產業立國の大方針に則つて其大本を確立すると共に中央集權の積弊を打破し地方行政制度の改革或は地租委讓自作農創定等の經倫を以て徐に地方分權の根幹を培ひ內には產業貿易の發達向上を助成し外には國際精神の協調と自主的態度とを嚴持して苟も國運の伸展と民福の增進に就ては施すべく爲すべきもの一として其實現に努力せざるなしこれ即ち國民に清新溌溂の生氣を與ふる所以の途に外ならざるも反對黨は事每に驕激なる態度を以て心事の公明正大なる我黨の政策に反對し故にを數を恃み其施設經營を阻止するの情勢歷然として圓滿なる國務の遂行は到底之れを望むべからざるに及び制限選擧掉尾の第五十四議會は解散を斷行せられ茲に吾人は光輝ある新選擧法の試練の前に信を國民に問ふに至れり

惟ふに國家內外の多事多難なる今日の如きは無く隨つて現內閣の使命尊々益々その重大を加ふるは勿論贅て之れを本縣の實情に徵するも產業資源の開發敎育機關の擴充河川道路の改修港灣の修築等數へ來れば我黨の標榜する積極進取の政策により其解決を俟つもの極めて多し況んや今秋冬の交を以て行はせらるゝ今上陛下御卽位の大儀に對し七千萬同胞擧げて奉祝感激の赤誠を披瀝すべき昭和戊辰に際會して明治維新の鴻謨を追憶し國運の轉機に善處するの要甚だ切なるを念ふの時に方り吾が國民の政治的能力を中外に表示すべき普通選擧の試練に際し新日本の建設者たる吾人は區々たる感情的利害の上に超越し天下の正道を履んで政策實行の一員となり我黨傳統の精神を体して憲政有終の美を齎らすに渾身の努力を致さんとす敢て本縣第三區七萬の有權者各位に宣す

木村清治氏のために

一丁目有志より

の依賴狀

平町二丁目有志は木村候補侯たざるべからざる次第何のため左の如き依賴狀を出し平同氏の爲め特に御盡力被して居る。下度以書中御懇願申上候

謹啓、春寒料峭の候高堂益々御淸榮奉賀候

敬具

昭和三年二月十四日

扱て吾人の要望したる普選第一回の試練に際し多年縣政の爲め一身を挺し地方福利の爲め努力したる實際政治家にして然も人格高潔なる

木村清治氏

候補者として出馬今や間日に迫り候時樂觀を許さざるの狀態に有之候是非各位の深厚なる御同情と御後援に

坂田長關　藤延太郎
潮內彥太郎
鈴木堅助
柏原眞吾
谷口仁太郎
田卷造酒之助
三非常松
鈴木新男
丹野榮三郎
白土四郎
小松崎善之助
內正一
平町二丁目一〇關內正一

推薦廣告

衆議院議員候補者

木村清治君

を推薦し當選を期す

平町古鍛冶町三番地　山崎與三郎
平町紺屋町十二番地　白井一
錦村大字中田安良町四十一番地　金成
小名濱町字上明神町十九番地　小野晋
植田町大字植田　古川傳
四倉町字仲町　新妻
大浦村字上仁井田字松葉百十二番地　渡邊金
山田村大字大林一五六番地　安島重三
大野村大字戶田堰原九十八番地　吉田保之
四倉町字仲町七十四番地　戶田兵
平町五丁目六番地　諸橋守次

第三區衆議戰況

泣くも笑ふも後數日

當落の分岐點！

形勢盛り返せる **木村清治**候補

必勝を期しての奮戰振り

衆議選擧日も接近し來り各陣くまで奮闘の二字にある候補並びに運動員は此處をのみと善戰して居る。先途と必死の策動をなして居る、當選せねばならぬ當選させねばならぬとはどの候補者運動員も祈つて居る事であらう、戰は既に八分迄進んで居る、最後の五分間迄！油斷大敵！但し法定選擧費には限りあり、文書戰に演說戰。ポスター戰と耳の闘ひより眼の戰へ、何處へ行つても選擧の話で此處許人間社會は逐鹿亂闘の巷と化して居る……其間にて石城政友會同志多數より推されて立候補せる

木村清治氏

は立候補以來各所に應援辯士と共に奮戰是れ力めて居るが强敵比佐候補他北部の同派松本候補の侵入あり加ひて、佐川、山田、氏家諸候補に介在して頗る苦戰にて近日大分優勢となれるも樂觀は許さぬものがある、過般の縣議選の得票から見れば石城郡では政友側優に民政側に勝れるも又、這回の比佐星の對戰から觀れば問題にならず、然しそは星派の策戰良しからざりしためと言はれて居るが木村氏は人格、手腕識見に於て嶷に三期に亘り縣會議員として直接縣治行政の上に發揮された事内外の認めて居り國家の選良として眞に得難き適任の士にして齡既に五十九才今回出でずんばその機なく是非とも氏を中央議政壇上に送つて石城地方のため引いて國家のために、つくさせたいとの聲が各所に漲りつゝあり木村先生を落すべからず、當選させねばならぬてふ聲は一人大浦方面や、知己のみの人々ではあるまい、兎に角泣くも笑ふも、此處數日に在り！ふ、〇田、〇崎、〇森よい要は當落の分岐點に立つてゐれ見參せん『山野邊眞立』

話耳目

◆初めから銅版を入れぬ編輯をなし澁き大和田氏に貸せる本社の所有の銅版『木村清治氏』を無斷で使用せる新聞經營者がある、又他人の宿に『誰れも居らぬ室に』入つて引出しやそこらを捜し廻る人もある……官權たりともかくの如きは出來得ぬ事、前者を四ツ倉新報の小林庫二君、後者は××××××の××××君となす、君等一體かくの如き處行を自分がされたら何と感するか禮儀知らず、あまりに筆者を舐つた否な侮辱せる行爲と言はねばならぬ、如何に選擧に熱せばとて物事の順序と今日の禮を人を難する前に何れが不當か内省し給へ　（眞立）

× ×

大同團同人へ

十六日附の無記名の手紙正に拜見しました、いつでも用意して居る、無記名等に男らしく正々堂々挑んで來給へ挑まれたら身命を賭して闘ふは小生の生れつきはあるまい、兎に角泣くも笑ふも、此處數日に在り！ふ、〇田、〇崎、〇森よい要は當落の分岐點に立つてゐれ見參せん『山野邊眞立』

社告

安藤信義
藤田孝一

右兩名都合により解職仕り爾今本社と關係無之候

尚ほ安藤君の進退については次號に詳細報じ一般の諒解を得たく候が同君は目下平中野呉服店のマークを腹部につけて居るものと推し居るも本社の關知せざる事に御座候

昭和三年二月

平新報社

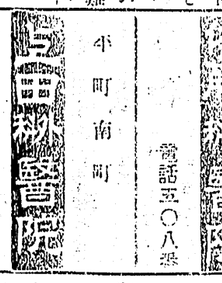
祝平新報之發展
磐城建物株式會社
支配人 井上貞治郎
平町『電話五一八番』

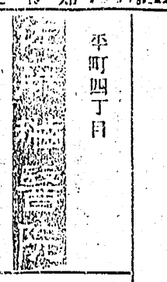
寒冷に當り
暖かい防寒具の用意
オーバー　六・七圓ヨリ
トンビ　十一・二圓ヨリ
大人マント　七圓五十錢ヨリ
其外
婦人コート・婦人マント
モヂリ外套
學生外套
全部荷揃

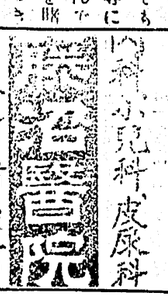
ふかや洋服店
磐城平坂（電二〇二）

磐城セメント代理店
西村屋藥舗
平町二丁目　電話二番

木村候補の熱辯を聽かれよ
二月十八日午后六時開會
會場　平劇場
衆議院議員候補者
木村清治政見發表演說會
應援辯士
本部特派員　松田謙吾
法學士　大和田義平
草野七五三之助
辯護士　千葉彦治
辯護士　眞木桓
記者　福島民報　川島豊
縣會議員　鈴木辰三郎
佐藤誠
常磐毎日社長　川崎文治
平支局長　柏木哲
主催者　泉村泉五九　小林滋次







リウマチ湯
急性慢性リウマチス、神經痛、せんき
温泉　鍼灸等ありとあらゆる療法も効なき永年の慢性重症も本劑數週の服藥にてスッキリ全治せられし活きた現實の證據を澤山に有する眞の靈藥であります
藥價　壹圓　貳圓　四圓
近來本劑の主成分を以て發賣せらるゝ向あるは如何に本劑の有効なるかを雄辯に立證するのであります
平町五丁目　山野邊藥局
藥劑師　山野邊東次郎

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關内藥舗
藥劑師　關内榮助
電話四〇番